

# 清流大川

羽地中学校  
学校だより 69号  
せいりゅうおおかわ  
H30. 7. 17



## はぐるま座朗読会

朗読劇を初めて体験して、すごく良い経験をしたと思えました。詩の文面だけじゃ伝えきれない戦争への憎しみ、悲しみ、怒り、平和への思い、広島のご郷への思いをこの朗読劇で感じることができました。

私達は唯一の被爆国に生まれただからこそ知ることができると、これからも伝えていく義務があると思っております。平和は、みんなですなげないかないといけないと思うので、今回の貴重な体験を忘れず、日々の生活に感謝していきたいです。本当にありがとうございました。



にぎやかだった被爆前の広島の前(中央右奥に産業奨励館(原爆ドーム))



戦争で亡くなった家族や友達をかえせ、という戦争に対する怒りや悲しみが伝わってきました。たくさんの詩を聞いて、この詩を書いた人はどういう気持ちでこの詩を作ったんだろうと、とても考えさせられました。また、新たに戦争のことについて知ることができました。



広島市郊外の府中町から投下十五分後の写真

「忘れないこと」人間は忘れる生き物だから、体験していない人が多くなり、そのことを伝えていく人が少なくなっていくと、また同じ事を繰り返すと思う。

一人一人が、世界中の人がその現状について知って、次の世代に伝えていくことが大切だと思う。

「伝えること」

「序」という詩に私は胸が痛くなりました。全てが奪われ、悲しかったと思います。

今日の朗読を聞いて、忘れられかけていることを真剣に語り継ぐ「はぐるま座」のみなさんに私はとても感動しました。体験者の話を聞いて過去に起こったことを必死で伝えようとする姿勢にも感動しました。この朗読会をきっかけに、私達もいろいろ調べたりして伝えていけたらいいなと思えました。

「平和な世界をつくるために必要な事は」語り継いでいくことです。語り継がないと、また戦争が起き、悲惨さや残酷さを見なければなりません。とても聞きやすい声で、戦争の悲惨さが分かりました。詩は感動しました。ありがとうございました。



ちいさい頃から沖繩戦のことは聞いており、実際に見たり「ガマ」に入ったりと、「沖繩戦」については学ぶことが多かったですが、原爆のことをあまり深く考えたことはありませんでした。今回の朗読会で改めて、原爆の怖さ、被害を知ることができました。朗読会の機会を得られたことで、原爆の知識や考え方が変わりました。

自分が思った気持ちを忘れずに、これからも様々なことに目を向け、考えていきたいと思えます。劇回 はぐるま座の皆さん、ありがとうございました。

印象に残った詩は「お姉ちゃん」という詩。

大好きなお姉ちゃんが、お化けみたいになってしまった。大好きなおじいちゃんが、大嫌いな戦争へいった。

この詩を聞いて、離れたくなくても引き離されてしまい、二度と会うことなく、亡くなってしまおう、という悲しい感じがすごく胸を打たれました。

私は沖繩戦の地上戦しか学んだことがなく、原爆のことは全く知らなかったため、今回の朗読を聞いてすごく学べ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

「序」という詩には、何度も「かえせ」という語句が使われています。それほど、原爆で戻ってこなくなったものは大きい、と感じました。絶対に忘れないこと、二度と同じ事を起こさないこと。小さな子供でも知るために周りが教えていくこと。戦争の恐怖を忘れてはいけません。だからこそ、戦争体験者の講話を聞くべきだし、跡地を巡ったり、資料館や博物館に行くことは、すごく必要だと思います。



負傷した弟を背負い肉親をさがす兄(長崎)

「無題」  
広島市南観音小学校五年 香川征